

令和4年度第1回
兵庫県域の大阪湾ベイエリア
活性化推進協議会

令和4年5月23日(月)14:30~15:50

兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会の設置

- 2025大阪・関西万博を契機に、人、モノ、投資の呼び込みを促進するため、**兵庫県域のベイエリア**の将来像や事業展開の方向性を示す「**兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化基本方針**」を策定する。
- 基本方針の策定および基本方針に基づいたプロジェクトを推進するため、知事と関係市長を構成員とする「**兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会（兵庫ベイエリア推進協）**」を設置する。

兵庫県域の大阪湾バイエリアの活性化基本方針について

趣旨

2025大阪・関西万博を契機に、兵庫県域の大阪湾バイエリアに、人、モノ、投資を呼び込む

基本方針の視点

兵庫県域の大阪湾バイエリア各地域の強みや特色を活かしたビジョンを描く

■健康医療、次世代エネルギー、物流、海洋レクリエーション等、各地域の強みを活かした将来像を提示

地域の有機的な連携により、圏域経済の浮揚を目指す

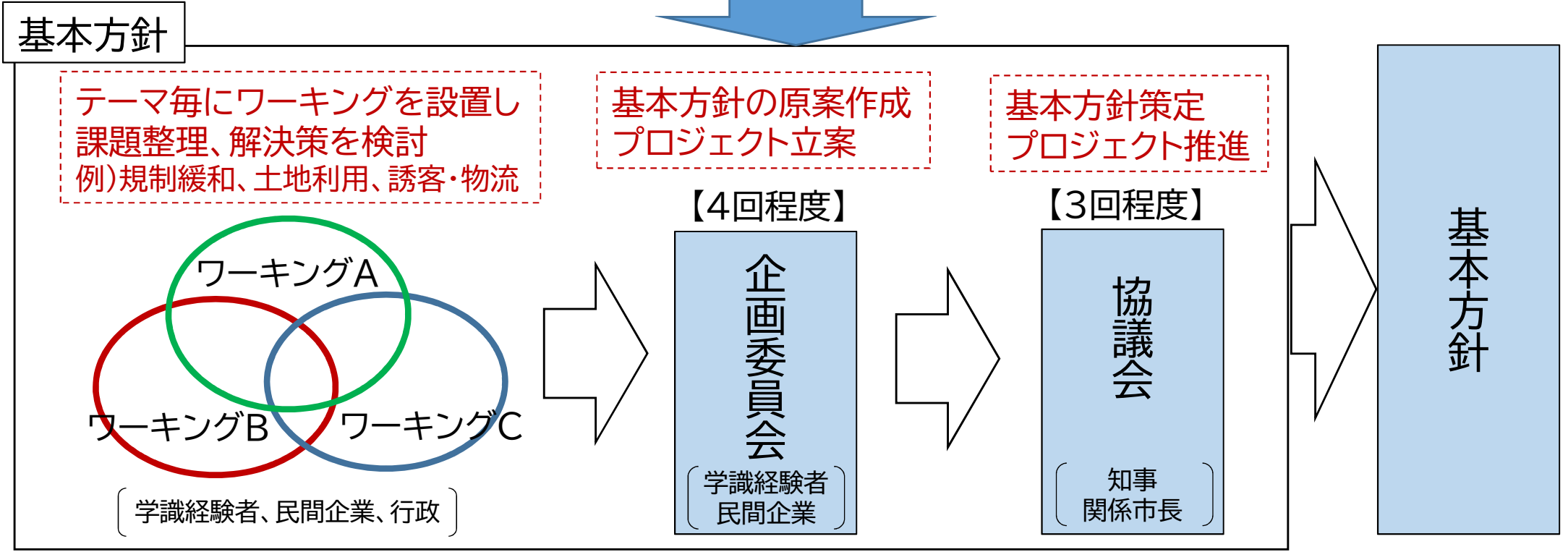
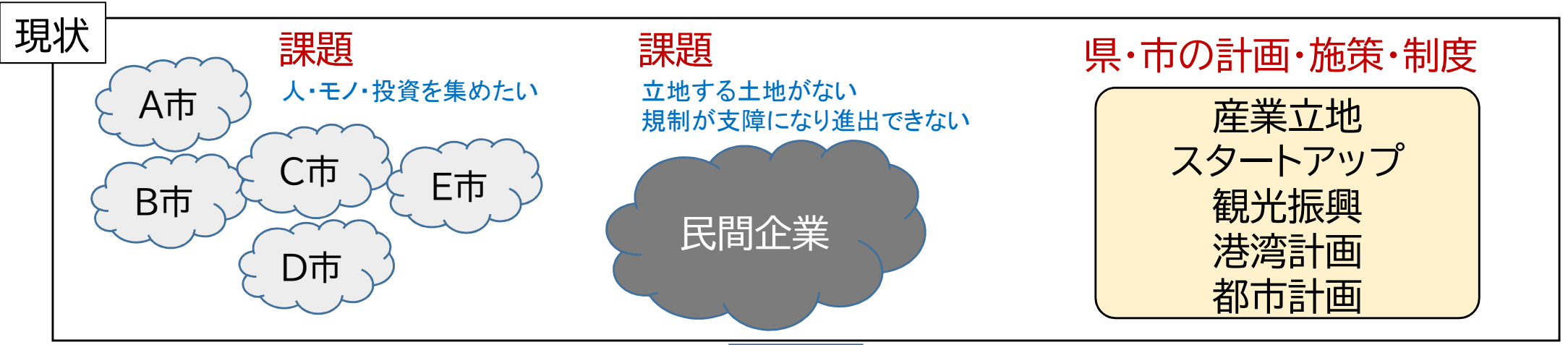
■地域の強み・個性を活かし、先端産業の集積や国内外からの誘客促進など、人・モノ・投資が集まる地域を創出

■人口流出対策としての雇用重視の広域経済施策や、対内投資を兵庫に呼び込むための施策等の展開を検討

官民連携により、従来のやり方に捕らわれない新しい発想や手法を取り入れる

■行政的な発想や手法ではなく、民間の自由で柔軟な発想を活かすことができる仕組みをつくる

基本方針策定の進め方（案）



先行できるプロジェクトは方針策定と並行して実施

基本方針策定のメンバー（案）

兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会

会長 知事
副会長 神戸市長
会員 尼崎市長、西宮市長、洲本市長、芦屋市長、南あわじ市長、淡路市長

兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会 企画委員会

委員長 上村 敏之（関西学院大学教授）
副委員長 橋爪 紳也（大阪公立大学特別教授）
委員 赤澤 宏樹（兵庫県立大学教授）
石川 路子（甲南大学教授）
織田澤 利守（神戸大学大学院教授）
木崎 尚文（（一社）日本旅行業協会関西支部兵庫地区委員会委員長）
多田 真規子（西日本旅客鉄道(株)地域共生部長）
楡井 義丈（（株）みなと銀行 地域戦略部長）
林 俊武（（株）三井住友銀行 関西成長戦略室長）
水方 秀也（（株）竹中工務店 開発計画本部長(西日本担当)）

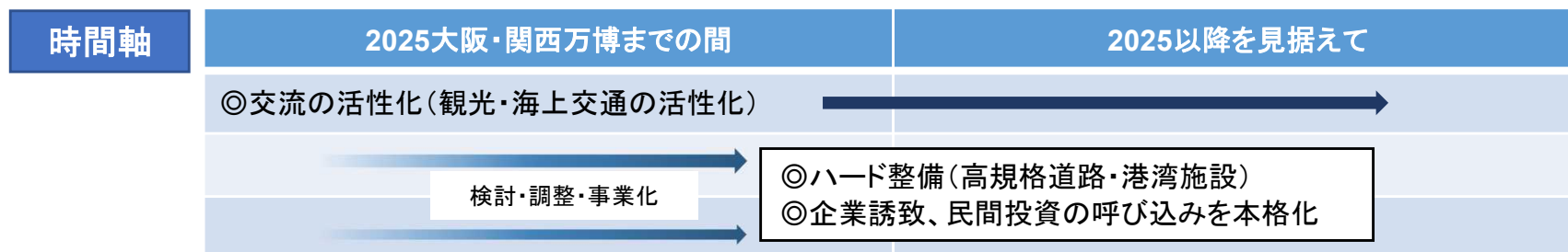
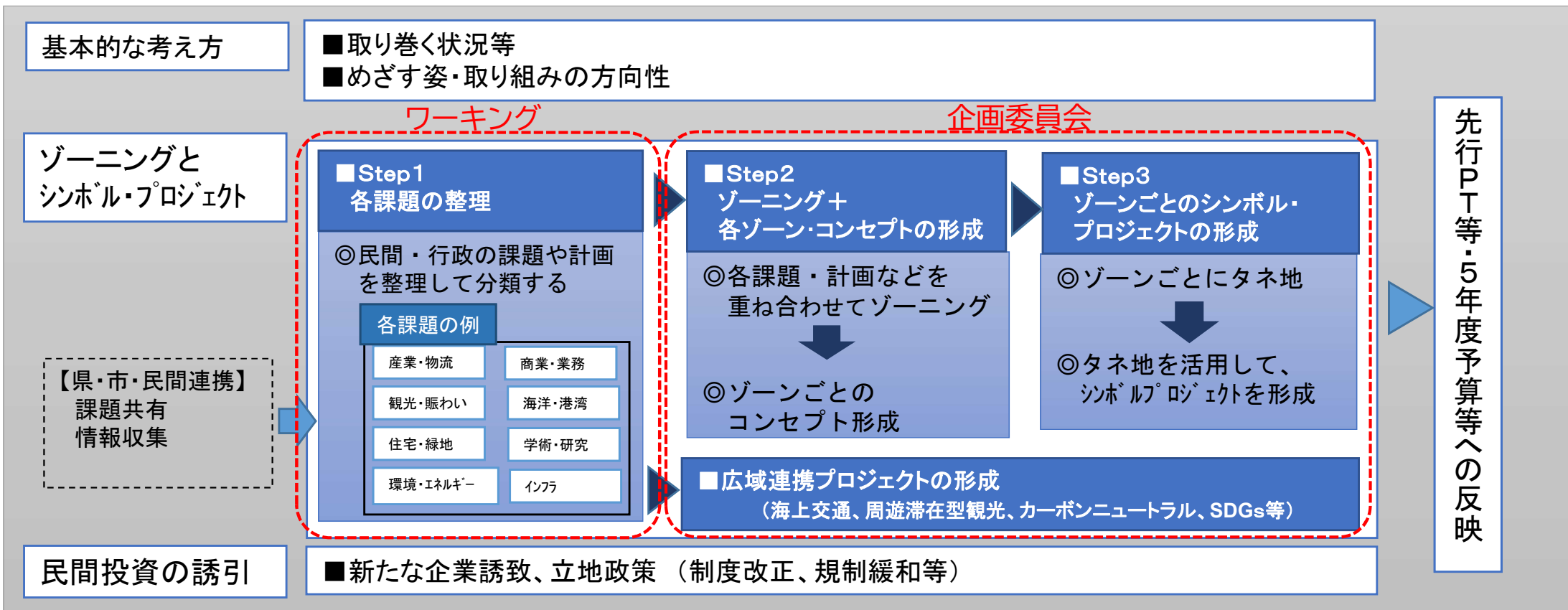
兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化推進協議会 企画委員会 ワーキング

テーマ毎に複数設置

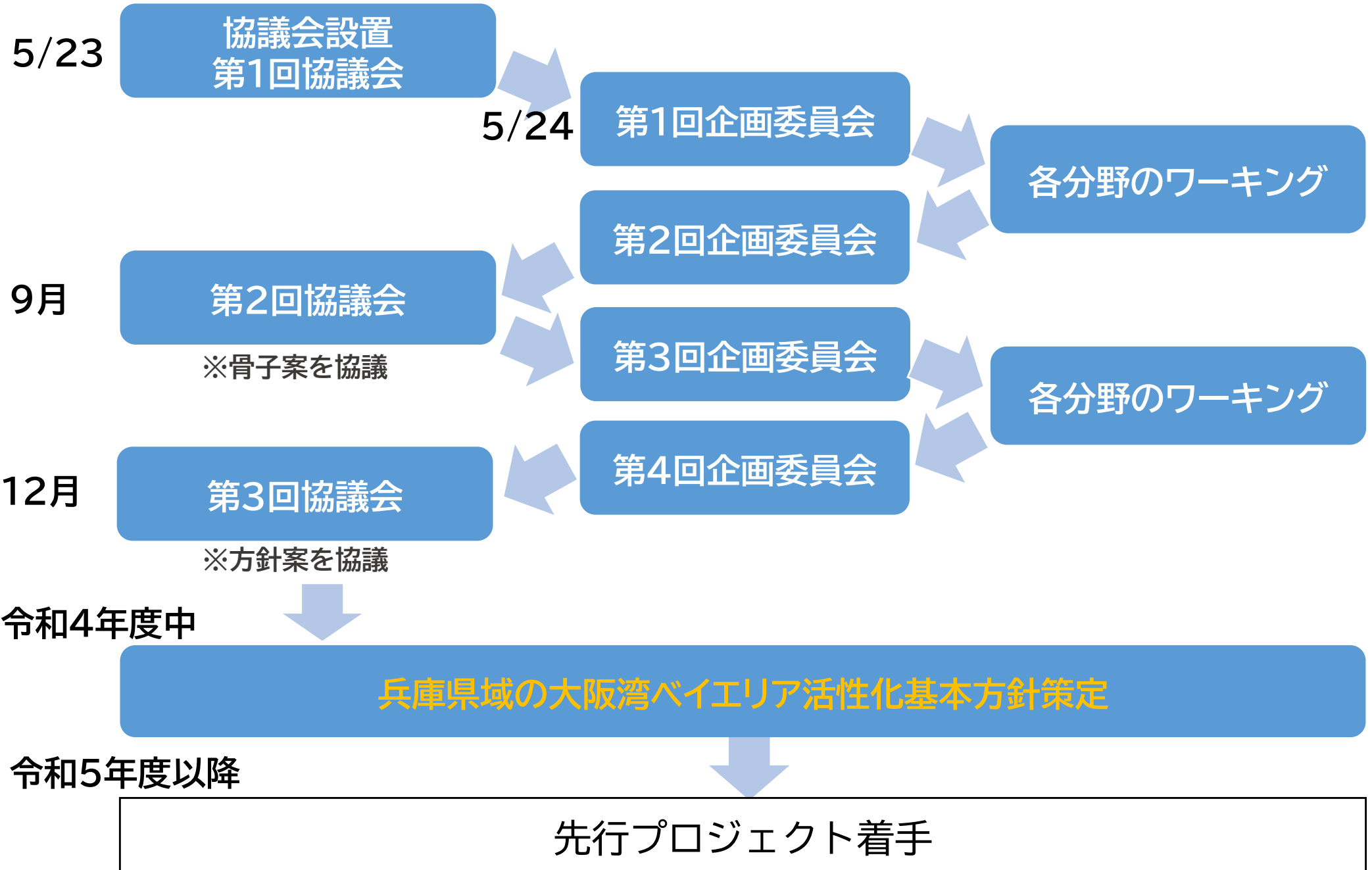
座長 学識者(委員会から)
構成員 企業職員、行政職員(県、関係市)

※企業職員は、委員が所属する企業等から選出
行政職員は、募集方法を別途検討

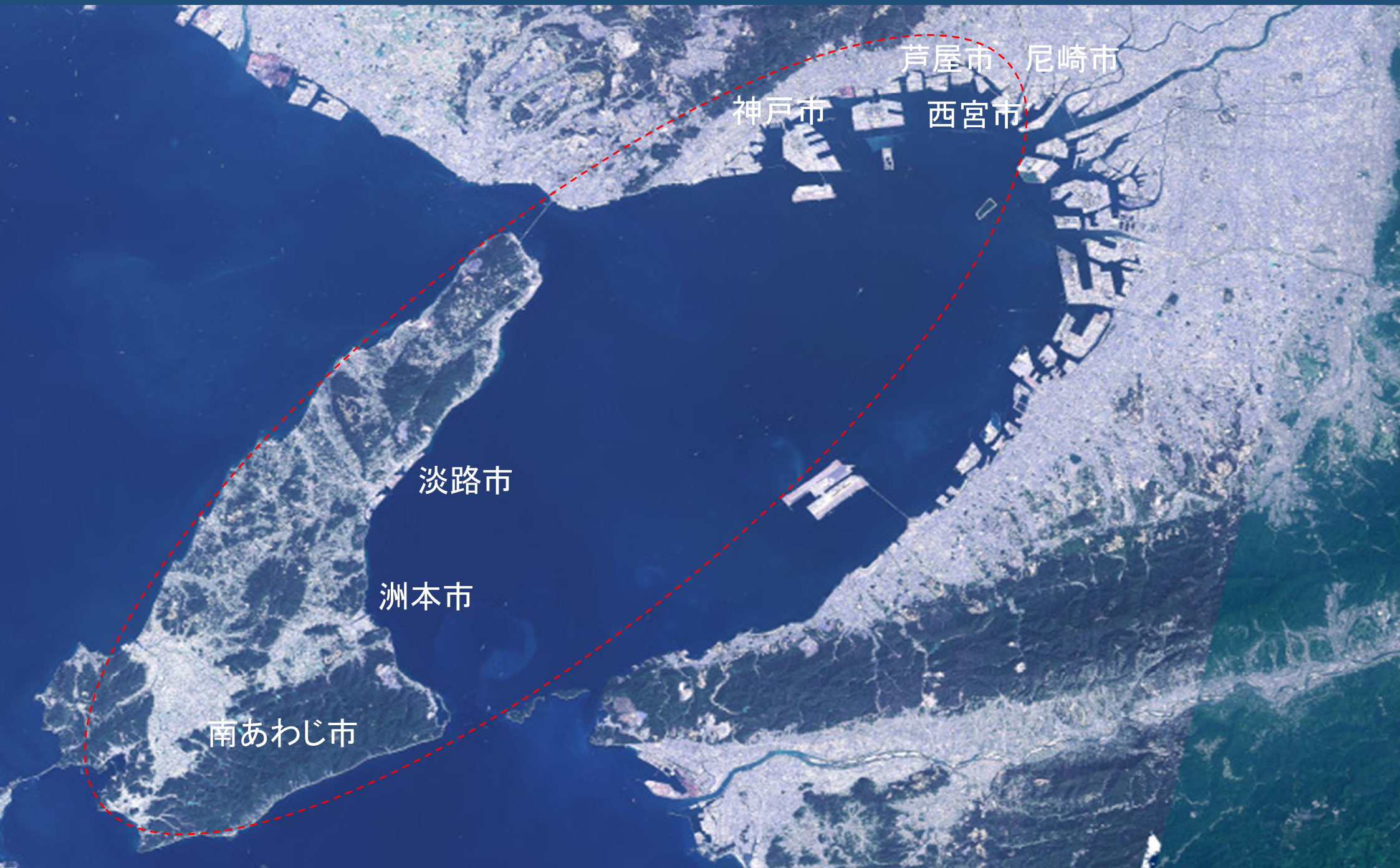
委員会、ワーキングの作業の進め方



基本方針策定のスケジュール（案）



【参考】大阪湾バイエリア全景



神戸市域のベイエリア活性化の主な取組み

都心・ウォーターフロントを中心とした各エリアの活性化

ウォーターフロント
都心・WF、ポートアイランド・六甲アイランド、HAT神戸、須磨エリア等
におけるにぎわい創出・回遊性向上 など

カーボンニュートラルの推進

水素実証事業、カーボンニュートラルポート など

陸海空の広域交通結節機能の強化

神戸空港の国際化に向けた検討、ポートアイランド・神戸空港へのアクセス
・利便性向上、大阪湾岸道路西伸部 など

神戸市域のベイエリア活性化の主な取組み



都心・ウォーターフロントを中心とした各エリアの活性化

○ ウォーターフロント地区の魅力向上

地区の再開発・にぎわいづくり・回遊性向上

- ・ 新港第1・2突堤間の水域活用推進
- ・ 花火・イルミネーションによる夜間景観の形成
- ・ BRT・LRT導入検討 など



○ 須磨エリアの活性化

須磨海浜公園の再整備

回遊性向上とにぎわいづくりに向けた実証事業の実施

- ・ 須磨・淡路間の航路導入
- ・ 周辺の集客施設を結ぶ新たなモビリティ導入
- ・ 賑わい創出に向けたスケートパーク・ドッグラン

須磨ヨットハーバーの魅力向上に向けた事業化検討



滞在型観光・誘客の推進

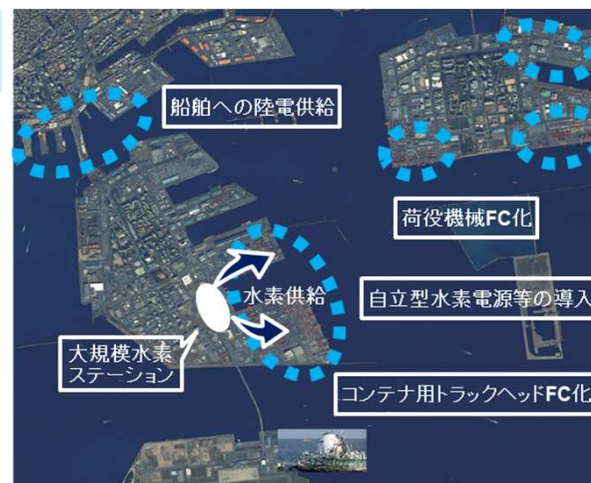
カーボンニュートラルの推進

水素実証事業への支援

- ・ 水素サプライチェーン構築実証事業
- ・ 水素エネルギー利用システム開発実証事業

カーボンニュートラルポートの形成

- ・ 陸上電力供給設備の導入(新港第1突堤、新港東ふ頭)
- ・ 自立型水素電源導入に係る検討 など



陸海空の広域交通結節機能の強化

神戸空港の国際化に向けた検討

ポートアイランド・神戸空港へのアクセス・利便性向上

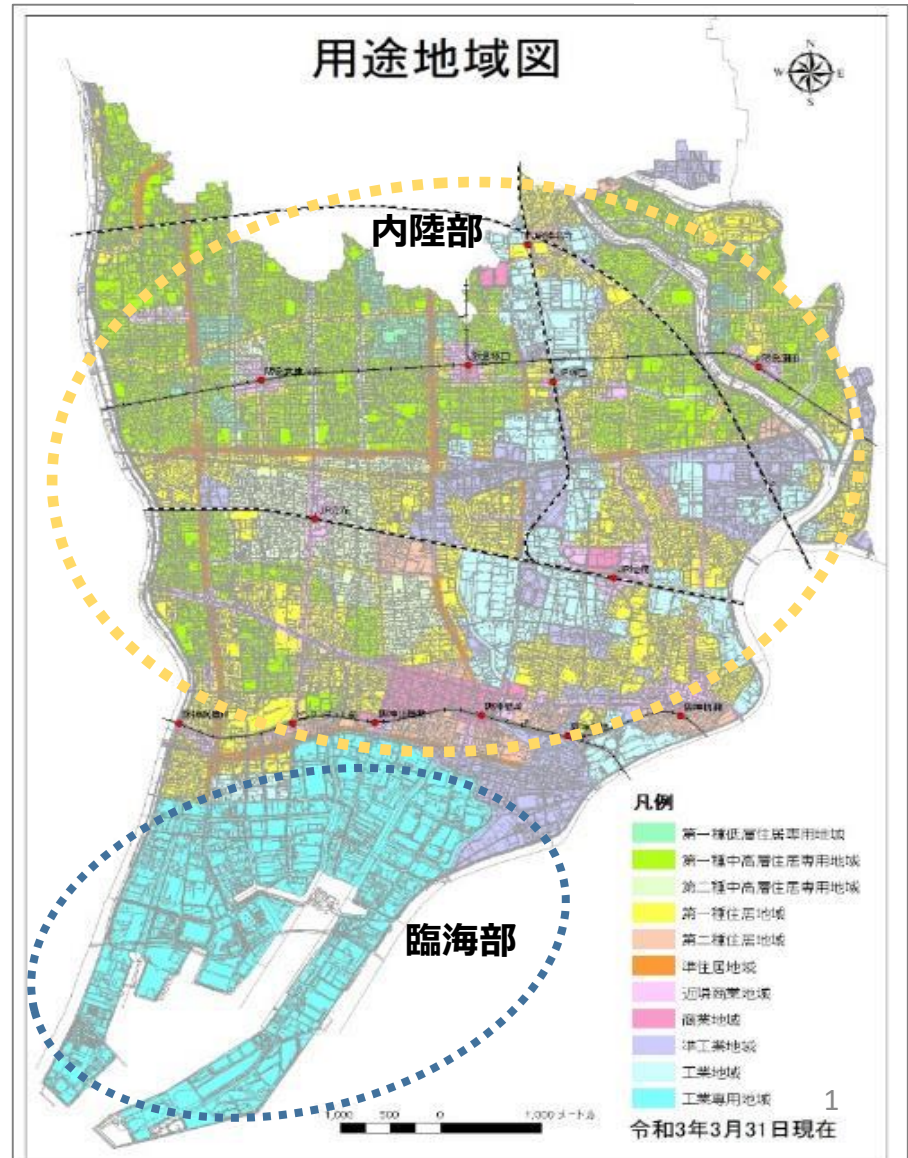
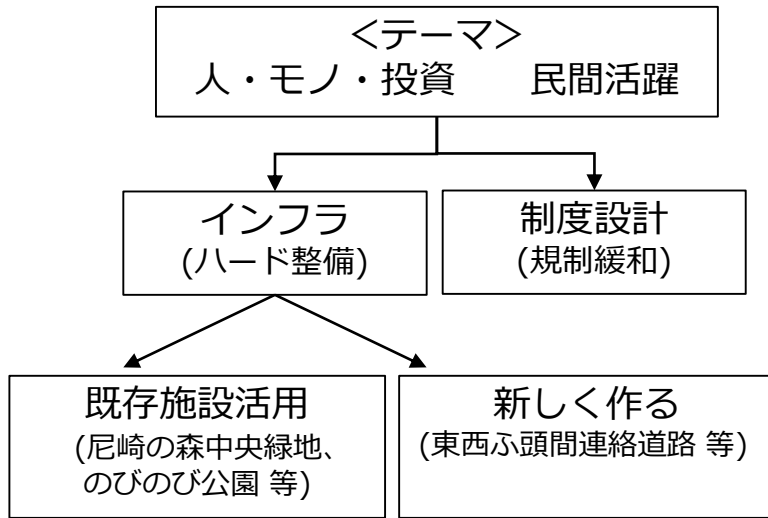
- ・ 新神戸トンネル南伸部の事業化検討
- ・ 生田川右岸線の機能強化(片側直進3車線化)
- ・ 神戸空港連絡橋4車線化

大阪湾岸道路西伸部の事業促進



持続可能なまちづくり

大阪湾ベイエリア活性化推進協議会 - 尼崎市からの報告 -



- 広域インフラは整備されており、交通便利は高い
- 市内の約1/3は工業地域であり、そのうち約1/2は工業専用地域
- 臨海部の工場跡地には、物流施設が進出

■ 尼崎市ベイエリアにおける地域の課題

- ① 東海岸町地区と末広地区の一体活用
⇒ **東西ふ頭間連絡道路の早期整備**
- ② 内陸部への物流交通の円滑化、慢性的な渋滞の対策
⇒ 尼崎伊丹線の南伸
- ③ 「地域共生」「地域活性化」に向けた取組の促進
- ④ 既存施設を利用した環境学習などの促進
- ⑤ 脱炭素社会の実現を目指し取組を加速



大阪・関西
万博会場



西宮市のベイエリアにおける 課題と施策の方向性

1. 自然環境保全と環境学習の発展

2. スポーツを核とした賑わいづくり

3. 産業集積の促進

名神湾岸連絡線

渡り鳥等の自然環境保全を強化！
◆ 貴重な海浜や公園を保全

緑とスポーツレクリエーション
施設機能の強化！
◆ 民間のノウハウを活用
(パークPFI等)

新たな産業用地の確保！
◆ 公的施設を整理再編し、産業集積を図る

2025 大阪万博の契機を活かす！
◆ 県と連携し、世界中の人々を呼び込み
海の玄関口の魅力をUP



令和4年5月
大阪湾ベイエリア活性化推進協議会協議資料

大阪湾ベイエリアの活性化推進に 関する課題と期待について



洲 本 市

深日洲本航路等と大阪湾ベイエリア

- ・洲本市は、兵庫県の南端にある淡路島の中央に位置している人口約4万2千人の市です。北は淡路市、南は南あわじ市に接し、東は大阪湾、西は播磨灘に面しています。
- ・瀬戸内海国立公園の先山地区、三熊山地区、由良地区などの自然林や塩生植物群落など、豊かな自然環境が形成されています。
- ・2020年(令和2年)の65歳以上の人口は36.8%を占め、超高齢社会となっています。今後、74歳までの人口が減少していくことにより、2045年(令和27年)には、75歳以上の人口が29%を占め、約3.4人に1人が75歳以上になると推計されており、この人口減少・少子高齢化への対応が喫緊の課題となっています。



深日洲本航路の概要及び運航実績

- 運航事業者：株式会社恭兵船舶（大阪府岸和田市）
- 船名：INFINITY（49トン双胴船）
- 船長：19.45m
- 幅：6.8m
- 乾舷：1.3m（深さ2.8m、喫水1.5m）
- 速度：約17ノット（約31.5km/h）
- 定員：68名
- 自転車積載台数：31台
- 乗船時間：約55分（総距離：約23km）



運航情報：2022年6月25日（土曜日）から運航開始予定です。乗船予約受付は6月

年度	全日 (1便平均)	平日 (1便平均)	土・日・祝 (1便平均)	全日 (全便合計)
H29	13.9人	10.7人	21.2人	10,600人
H30	8.4人 (1.1台)	6.1人 (0.6台)	13.4人 (2.1台)	15,218人 (1,906台)
R1	—	—	18.7人 (2.1台)	9,479人 (1,057台)
R2			運航中止	
R3	—	—	19.1人 (4.1台)	2,143人 (462台)

大阪湾ベイエリア活性化推進協議会

～芦屋市からの報告～

芦屋市の特色

- ・ 国際文化住宅都市（昭和26年芦屋国際文化住宅都市建設法 公布）
質の高い住環境を備えた都市
- ・ 芦屋庭園都市宣言（平成16年）
- ・ 芦屋市全域を景観地区に指定（平成21年）
- ・ 都市計画の用途地域で準工業，工業，工業専用地域など産業地域がない

埋立地の現状

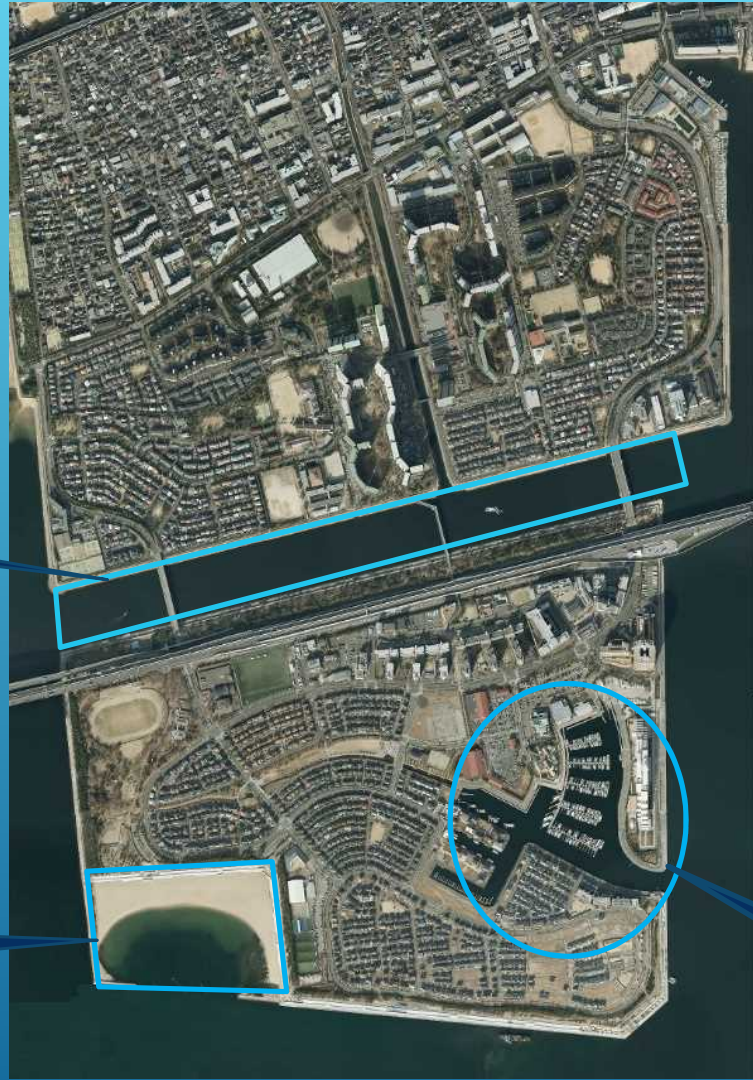
山手に比べて埋立地（芦屋浜・南芦屋浜）は問題が顕在化



- ・ 芦屋浜 オールドニュータウン化
- ・ 南芦屋浜 「海上リゾート都市」を目指し開発されたが
さらなる交流と回遊性のある賑わいが望まれる

◎ポテンシャルを活かしきれていない

～芦屋市からの報告～



芦屋浜
昭和54年入居開始

南芦屋浜
平成10年入居開始

マリーナ

～芦屋市からの報告～

海を活用してポテンシャルを上げる施策の実施

①マリーナの活用

クルーザーの大型化に対応できていない



係留施設の改修、大型クルーザーの呼び込み

②チャンネルパークの活用

マリンスポーツの推進（カヌー、カヤック、サップ等）

③海上観光

海から阪神間の夜景クルーズを楽しむ

マリーナを拠点に観光地巡り

④大阪万博会場への海上からのアクセスや来場者の宿泊

先の確保



～芦屋市からの報告～

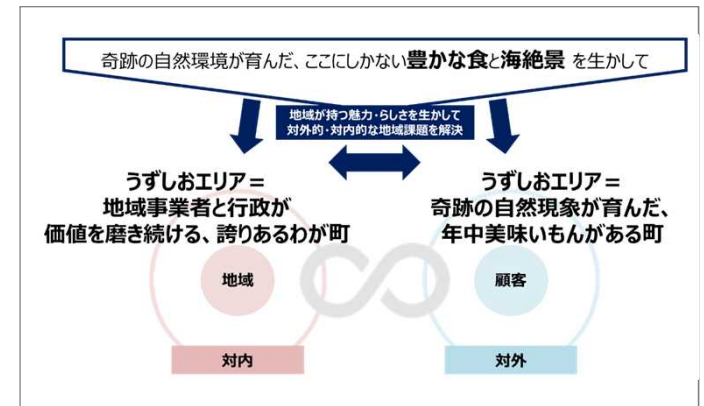
南あわじ市 大阪・関西万博を見据えた取組と課題

○大阪・関西万博の開催を見据え、淡路島全体を美食の島として打ち出し、観光客を呼び込む方向性（御食国プロジェクト）が共有されている。これに基づき、南あわじ市では各種取組を推進中。

（１）鳴門海峡地域の総合的な整備とブランド化

① 広域ブランディング事業

南あわじ市と徳島県鳴門市が連携し、鳴門海峡を核とした広域観光圏の形成を目指し、3箇年計画でブランディング事業を実施中（令和3～5年度）。既に策定した広域連携計画に基づき、令和4年度以降はグルメ商品を開発するほか、提供する食材のストーリーを語れる人材の育成（マイスター制度）などに取組む。



② 大鳴門橋周辺環境整備事業

兵庫・徳島両県が進める大鳴門橋桁下の自転車道整備計画も踏まえ、大鳴門橋周辺の観光・レクリエーション施設整備・充実を推進中。

- (i) 「大鳴門橋記念館」駐車場の拡張（令和2年度）
- (ii) 笹山駐車場に「休憩・展望施設」を整備（令和4年度）
- (iii) 大阪・関西万博の開催にあわせ、老朽化した「道の駅うずしお」を建て替え（令和6年度）





南あわじ市 大阪・関西万博を見据えた取組と課題

(2) インバウンド等受入体制の整備

① 二次交通の整備

- ・ 島内の公共交通であるバスの利便性の向上
(観光ルートを増便、神戸淡路鳴門自動車「淡路島南PA」を活用など)
- ・ レンタサイクルの充実 (乗り捨てなど)、カーシェアリングの整備など

② 多言語に対応した案内表示板の整備

- ・ インバウンドに対応した外国語による表記看板の整備など

③ 市内事業者の育成

- ・ 飲食店等でのメニューの多言語化、ハラル食等への対応、接客等における多言語への対応など

④ 長期滞在型観光推進、観光ガイド養成事業

- ・ 全国通訳案内士の有資格者による外国人向け地域観光ガイド養成の実施 (令和3年度開始)
- ・ 長期滞在のための体験型コンテンツの開発

参考：次期「淡路島総合観光戦略の策定」

- ① 万博をめざした対策を戦略に明記
- ② 持続可能な観光地域づくり (日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D))
- ③ 南あわじ市の取組も次期戦略に位置付け

淡路市の“現状”

01

“東海岸の活性化”

夢舞台サステイナブル・パーク

- 職住一体のコンパクトシティ
- パソナ淡路本社
- 脱炭素先行地域の選定

02

“西海岸の活性化”

- パソナ、バルニバービ、
幸せのパンケーキ
- 交流人口の増加
- 高速バスの新路線

03

“人口の社会増”

- 企業誘致による雇用増加
- 住宅建設、取引の増加

いつかきっと帰りたくなる街づくり

淡路市の“課題”

01

“未利用地等の活用”

- 大観音像跡地
- 夢舞台高台用地
- 津名港周辺の再整備

02

“公共交通の強化”

- 明石海峡大橋島民無料化
- 海上交通の整備
海の駅津名港
交流の翼港
- 島内2次交通の強化
- 紀淡連絡道路
四国新幹線構想
- 道路拡幅等の整備

03

“あわじ環境未来島構想 の実現”

- 農と食の持続
第1次産業の活性化
- エネルギーの持続
再生可能エネルギーの創出
- 暮らしの持続
観光戦略の推進
- 大阪・関西万博への参画

ふるさと淡路島、新時代へ

